

NPO法人いこま山の子会
いこま山のようちえん

【内容】

○山中の自然地形を生かし遊ぶことで自然と足腰・体幹が鍛えられ、はじめは慎重な足取りで急な坂を登ったり木登りをしていた子も、縦割り保育のため年長児の動きを観察し、まねをすることで半年もすると器用に体を使い走り回るようになった。また、今年度満3歳児のクラスを設け、年齢の幅ができたためか、これまで以上に年長児が年少者を助けるという姿も目立ち、異年齢で育ち合うよさが生かされた。

○遊び道具は木の実・土・葉っぱ・木片・石など自然物が中心。見立て遊びや近くの川で水の流れをせき止めたり、沢蟹探しをするなど各々が想像力を働かせて遊んだ。絵具や折り紙なども毎回活動場所に持ち込み、静かに制作遊びをしたい時も集中できる環境を用意した。紙ヒコーキに夢中になった時期もあり、制作の工夫と飛ばし方や飛ばす場所の工夫にまで広がり環境を活かした活動となった。

○食べこぼしのないよう(害獣対策)注意し、皆で片付け・ごみ拾いをするといった日常的な意識づけと、イベントとして里山クラブさんを招いての、里山整備(危険木の撤去)を見学し、みなで力を合わせて景観を維持していく、自然や環境を大切にする心をはぐくんだ。



取組概要

【効果】

- ・一年を通して季節を感じると共に、全身を使って遊ぶことで体力が付き、体の動かし方が柔軟になった。
- ・自然物を使ってとことん遊ぶ楽しさや不思議さを体験し、想像力や考える力、集中力が育まれた。

NPO法人いこま山の子会
いこま山のようちえん

【内容】

令和7年度は棚田クラブ活動場所の縮小により、通例としてきた行事(田植え・稲刈りなど)が行えなくなったものがあつた。しかし、日々の活動で野菜や果物の収穫、川遊びや虫取りなど式の移ろいを感じながら活動することができた。また、耕運機を購入し、より広い範囲に植え付けをすることができ、子どもたちがより興味を持って畑へ来ることができた。

